

経営比較分析表

埼玉県 志木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	70.99	100.00	2,246

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
74,183	9.05	8,197.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
74,312	9.05	8,211.27

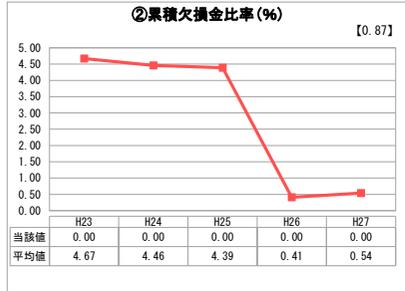
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

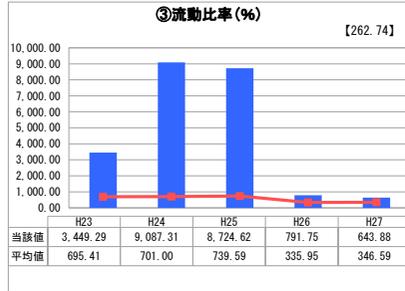
1. 経営の健全性・効率性



「経常損益」



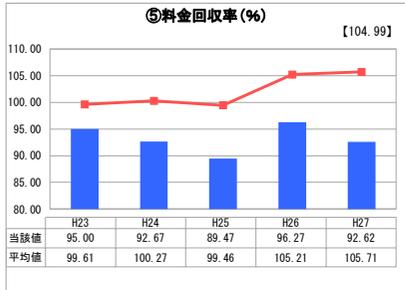
「累積欠損」



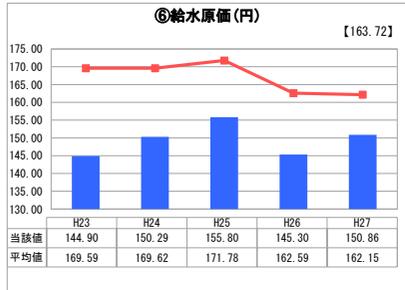
「支払能力」



「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

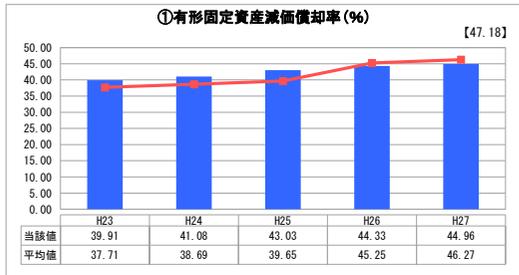


「施設の効率性」

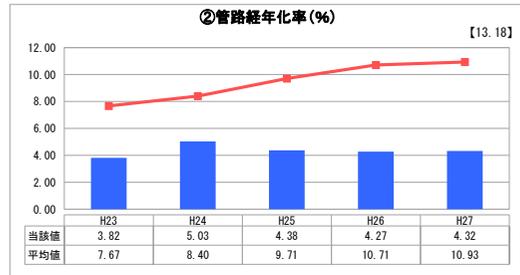


「供給した配水量の効率性」

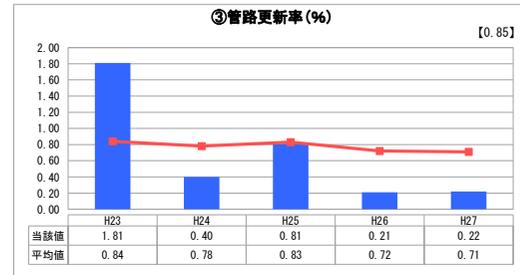
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
類似団体平均値より上回った数値を示しており、黒字を示す100%を上回っている状況となっております。

②累積欠損比率
当市は0%で累積欠損金は発生していないことを示しております。

③流動比率
類似団体平均値を上回る状況となっており、地方公営企業法の改正により資本の部に計上となっていた企業債(企業債償還金)が負債の部へ変更となったことにより、平成26年度より比率の低下となっております。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値を下回ってきており、減少傾向の状況となっております。これは新たな企業債の借入を行わず、水道料金等の収入において施設整備等を行っている状況となっております。

⑤料金回収率
類似団体平均値より下回っており、100%を下回った数値による状況は、給水収益以外の収入により賄われている状況となっております。

⑥給水原価
類似団体平均値より下回っているのは、給水収益以外の収入にたよっている状況のため、業務の改善などにより人件費等の経費削減を行っている影響と思われます。

⑦施設利用率
類似団体平均値より上回っており、地域的に給水人口の微増による影響と考えられます。

⑧有収率
類似団体平均値より上回っている状況にあり、管路からの漏水等が少なく健全に保たれている状況となっております。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体における数値に対しては、ほぼ平均値を示している状況となっております。

②管路経年化率
平均値を下回った状況となっているのは、昭和50年代に管路布設工事を多く行っているため、今後10年においては、管路の経年化が進む状況と見込まれております。

③管路更新率
類似団体を下回った数値となっているため、基幹管路・配水支管の更新計画を策定し、計画的に更新を進める計画ではありますが、管路更新については基幹管路の更新費用等が多額にかかるため、管路更新率のアップは難しい状況であります。

全体総括

志木市水道事業の現状としては、経営的には黒字で安定した状況となっているが、料金回収率で示すとおり給水収益では賸すず給水収益以外の収入に頼っている状況となっており、今後10年においては管路の経年化が進む状況が見込まれるため、平成28年度に水道ビジョンの策定を予定しており、施設設備・管路等の更新費用に対する財源確保が必須であるため、それら費用に係る財源のひとりである水道料金の適正な設定や企業債の借入時期(将来の負担)についての経営戦略が必要となっております。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。